

最終講義の案内

土山實男教授 「リアリズム国際政治と日本」

2019年1月11日（金）午後1時20分～午後2時50分

17号館 17410 教室

主催 青山学院大学国際政治経済学部

青山学院大学国際政治経済学部で長年にわたり国際政治学と国際安全保障論を教えてきた土山實男教授が「リアリズム国際政治と日本」というテーマで最終講義をされます。土山教授は『安全保障の国際政治学―焦りと傲り』（有斐閣）の著者として知られる国際政治学者で、現在、国際安全保障学会の会長をつとめています。

最終講義では、国際政治でいうリアリズムが何であるかについてツキュディデスに遡って説明したあと、幕末、明治の初めにあった日本のリアリズムがいつ、なぜ失われたのかについて話されます。また、戦後日本外交のリアリズムのひとつの例として、中国が核兵器を持って日本は核を持たない決定をしたことをあげ、この判断に関わった永井陽之助、若泉敬、佐伯喜一、高坂正堯らのリアリズムについて論じ、また、若泉の沖縄返還交渉での役割についてもふれられます。

最後に、青山学院大学国際政治経済学部のリアリズムについて話されます。36年前、他大学に先がけて国際学部として創設された国際政治経済学部の国際政治学科では、学会から猪木正道、衛藤瀋吉、永井陽之助、渡辺昭夫、袴田茂樹、山本吉宣、高木誠一郎氏らが、外交界から斎藤鎮男、中山賀博、村田良平氏らが、そして新聞界からは堂場肇、渡辺善一郎、阪中友久氏らが教壇に立たれました。彼らは日本を代表するリアリストです。彼らが国際政治経済学部に、また日本に期待したものは何だったかを問います。